

# 2016年度 都立高校新入試方法に関する調査 報告書

2016年5月29日

東京の日本語教育を考える会

## 【調査の趣旨】

わたしたち「東京の日本語教育を考える会」は2004年以来、外国につながる子どもの日本語指導を行う学校関係者、NPO・NGO、研究者、市民等により、毎年「東京の日本語教育を考えるつどい」を開くとともに、東京都教育委員会や都議会や区市議会の関係者と懇談を重ねる等、教育の条件改善につながる活動をしてきました。

昨年は、近県や大阪などに比べても立ち後れが見られる都立高校の在京外国人枠の実態を踏まえて「東京都立高校在京外国人入試の実態調査」を実施しました。みなさまのご協力により、596名ものデータを集めることができました。

今年は、昨年調査に続き、「2016年度都立高校新入試方法（在京枠5校・5教科受検・特別措置）に関する調査」を実施し、以下3点の変更が「外国につながる子ども」にどのような影響を与えたかを調べました。

### 【参考：2016年度の都立高校入試の変更点】

- (1) 在京外国人枠をもつ都立高校が昨年度までの3校から5校へ拡大した。
  - (2) 従来一部の全日制高校で実施されていた3教科受検を廃止し、全ての全日制高校で5教科受検を導入した。
  - (3) 特別措置を従来の「ルビふり」のみから「辞書持込可」「時間延長」へと拡大した。
- 今後、この調査結果が行政機関や議会関係者等の中で活用され、東京で学ぶ外国につながる子どもたちの教育条件改善につながることを切に望みます。

# 「2016年度都立高校新入試方法 (在京枠5校・5教科受検・特別措置)に関する調査」

## 【調査結果】 (回答27団体、受検者数208名)

番号	【問1】在京外国人入試枠が都立竹台高校・南葛飾高校(2校計30名増)が加わり、4月受入枠は、95人になりました。可否を問わず在京有資格の全受検者に関しお答えください。	回答総数99名
①	今までは通学圏内に在京枠がないことを理由に在京入試受検しなかった生徒が、今回は在京枠で受検した。	0名
②	今までも在京受検をしていたが、通学できる在京枠の高校が複数になり選択できるようになった。 【コメント】2校増えたことは大きな前進であったことが確認できる。	42名
③	相変わらず通学圏内に在京枠の高校はなく、受検資格はあっても受検しなかった。 【コメント】回答は全て多摩地区在住者である。①の回答はゼロで「遠くてもがんばって通おう」という範囲でないことがわかる。多摩地区に在京枠がないことの弊害は非常に大きい。	18名
④	通学圏内に在京枠の高校がある／新たにできたが、受検生の希望(学科・レベル)に合わず、受検しなかった。 【コメント】入学後は一般受検の日本人生徒とともに学ぶことを考えれば、在京受検校は「通学圏内ならどこでもいい」とは言えない。「多様な難易度」「専門学科」が不足していることを示している。	11名
⑤	通学圏内に在京枠の高校はある／新たにできたが日本語・英語力が不十分なため受検しなかった。 【コメント】これは滞日期间が短い生徒たちであろう。昨年までの入試なら、学力さえあれば3教科受検で全日制高校進学道が開けたであろう生徒たちである。 在京を受検しなかった③④⑤の合計は53名で、在京を受検した①②⑥の合計の46名を上回っている。在京入試の方法が受検生の実態に合っていないことを示している。	24名
⑥	従来、日本語・英語力の不足や遠距離を理由に、在京入試は受検せず、全日制3教科の受検を目指してきた生徒たちが、今回は全日制は5教科受検になるため、在京入試を受検した。	4名
⑦	在京外国人入試は今後どのように実施していったらいいとお考えですか。(A Bは複数回答可)	
	A: 在京枠の高校をもっと増やしてほしい。	21名
	B: 在京入試の受検方法を変えてほしい。	13名
	C: 現在のままで良い。	1名
	<p>【コメント】(回答7団体の自由記述に基づき)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在京枠が5校になって受検生は昨年度より25名増えた。通学圏内に在京枠の高校ができて受検者が増えたと同時に、5教科入試が導入されたためにあえて在京枠に挑んだ生徒も含まれるだろう。しかし、在京枠は多摩地区になく、通学圏内にあっても受検生の希望やレベルとの不一致で選択できないなど、まだまだ設置校数が足りないことがわかる。</li> <li>学力検査ではなく語学力で合格者を決める入試方法は、どんなに学力が高い生徒でも、英語圏以外の滞日期间の短い生徒の合格が困難になるという問題がある。また、学力と合わない高校に合格した生徒にも入学後に問題が起きる可能性がある。</li> </ul> <p>高校で学ぶに足る基礎的な学習ができていながら、日本語を母語としない生徒に対しても、全日制高校に合格できる入試制度をきちんと用意することが必要である。</p>	

【問2】都立全日制一般入試における5教科受検について。受検前に考えていた志望校をもとにお答えください。 可否を問わず全受検者に関しお答え下さい。		回答総数123名
⑧	今までなら全日制3教科の高校を選んで受検していたであろう生徒が5教科で受検する学校を希望した。	10名
⑨	今までなら全日制3教科の高校を選んで受検していたであろう生徒は、全日制の受検を断念して、3教科/学力検査なしで受検できる高校を希望した。	10名
⑩	今までなら全日制3教科の高校を選んで受検していたであろう生徒が、都立全日制の受検を断念して私立高校を希望した。	8名
⑪	今までなら一次入試で全日制3教科の高校を選んで受検していたであろう生徒が、一次入試での合格を期待しないで二次試験の3教科入試での合格に期待した。 【コメント】回答⑧～⑪は、全日制高校進学希望者で、5教科受検のみになった影響を受けたグループで、123名中32名おり、全体の26%を占める。この調査は受検前の志望校を聞いているが、3教科での全日制高校進学を閉ざされたこのグループの生徒たちの進路選択は、⑧⑨⑩にほぼ等しく分かれた。実際の入試では、通学可能な高校の中で入りやすい高校を5教科で受検して合格した生徒、在京で不合格になった時点で、準備不足の5教科受検の予定をとりやめ、併願優遇の私立に決めた者、5教科受検したものの不合格で、二次・分割後期の3教科入試で、全日制や三部制定時に進学を決めた者が多いと思われる。	4名
⑫	もともと5教科で受検できる生徒が5教科受検を希望したので、今回の5教科入試の制度変更による影響はなかった。【コメント】123名の回答のうち23名というのは、全体の約19%である。昨年度の調査でも、約19%は5教科入試で合格している。来日3年程度で、5教科入試制度でも全日制に進学できるのは、全体のほぼ2割にとどまることが見えてきた。	23名
⑬	もともと定時制を志望していた生徒で定時制で3教科の受検を希望したので、今回の5教科入試の制度変更による影響はなかった。【コメント】123名中55名、約48%である。この内約7割は夜間中学在籍生徒である。すでに15歳を超えて、昼働き夜学ぶ生活が定着し、高校進学後も生計のために当初より夜間定時制進学を希望していると考えられる。年齢的に高いこうした生徒のためにも、夜間定時制高校は、今後も存続させることが強く望まれる。	55名
⑭	5教科による変化に関わらず、初めから私立の受検を希望していたので、今回の5教科入試の制度変更による影響はなかった。 【コメント】⑩と区別が難しいが、従来より2グループある。1つは、5教科入試では実力より低い高校になることを嫌って、実力相応の私立をめざした高学力生徒。もう1つは、5教科では都立全日制に届かないが夜間定時制には行きたくないので、私立単願にした場合である。5教科入試でやむなく都立を断念したことで、卒業までに経済上の退学が出ないことを願う。	13名

【問3】全日制一般入試における特別措置（ルビ振り＋辞書持ち込み＋時間延長）について		
(1)特別措置を申請した。		50名
⑮	ルビ振り	13名
	A：有効だった。 B：有効でなかった。	3名
⑯	辞書持ち込み	12名
	A：有効だった。 B：有効でなかった。	10名
⑰	時間延長	9名
	A：有効だった。 B：有効でなかった。	4名
⑱	(2)特別措置の資格があったが申請しなかった。	11名
【コメント】全てで「有効だった」という回答が多かった。「非漢字圏の生徒はルビ振りと辞書持ち込みで意味を調べることができた」「時間延長で考える時間ができた」などの記述が複数あった。その上で「辞書を使うのに10分の延長では不十分」「紙の辞書を使い慣れていない」「1人だけの別室受検を嫌がった」「生徒の母語の辞書がない」「母語の辞書は3万円もするので買えなかった」等、特別措置を申請できない生徒もいて、一層の改善を求める意見があった。		

## 【調査結果を踏まえた改善提言】（1～11）

### 【1】都立高校在京外国人入試などについて

2016年度に在京枠の高校が3校から5校（国際・飛鳥・田柄・竹台・南葛飾 4月入学定員計95名）に増えたことは前進であるが、以下一層の拡大充実が必要である。

- 1、多摩地区や、23区の南部地区の都立高校に在京外国人枠開設が必要であり、10校以上への増設が求められる。
- 2、普通科以外に工業科・商業科・定時制の都立高校にも在京外国人枠開設が求められる。
- 3、多様な難易度の都立高校への在京外国人枠開設が必要である。
- 4、外国につながる日本国籍のみの者にも在京外国人枠を適用することが必要である。
- 5、外国人枠対象を来日3年から帰国・来日7年に変更することが必要である。
- 6、学力も測定する入試への改善が必要である。
- 7、在京外国人枠をもつ都立高校には、外国人生徒担当教員を増員するなど、教職員の体制を拡充し、日本語指導・やさしい日本語による取り出し教科指導の充実が必要である。
- 8、小中学校での日本語指導・学習支援の一層の充実が求められる。

### 【2】全日制都立高校の一次検査の教科受検について

来日して日が浅く日本語習得に苦労している中学生にとっては、全ての全日制高校が5教科受検になったことは、全日制高校への進学の可能性を狭める極めて厳しい制度変更である。

- 9、「外国につながる子ども」に関しては、一次検査においては英・数と任意の1教科による3教科、二次検査においては3教科のうち英・数の2教科で受検できるようにすることが必要である。

### 【3】特別措置について

一次・二次検査における特別措置が一定改善され、ルビふりだけから、国語以外について、紙の辞書2冊までの持ち込みと、それにともない1教科10分の時間延長になった。

- 10、検査は別室受検とし、検査時間は1.5倍の1教科75分程度にする等、受検生の実情を踏まえた改善が必要である。

### 【4】在京外国人枠対象者の実態調査について

- 11、「多摩地区に在京外国人枠の高校がないこと」「平成28年度入試で全日制高校の一次試験が5教科になったことが、在京外国人入試の有資格者（中学校に在籍しない高校進学希望者、日本国籍だが日本語が母語でない生徒を含め）の受検にどのような影響を及ぼしたか」について調査を行い、実態を踏まえて次年度の入学選抜方法について検討・改善することが必要である。